

市街地の急傾斜崩壊危険区域を豪雨から守る

下水道雨水排水計画の見直しを



井之川博幸議員は一般質問で、先の西日本豪雨や71年前のカスリーン台風のような「豪雨」が沼田台地の市街地を襲ったら、「急傾斜崩壊危険区域」に指定されている台地の西端に位置する、沼田公園から西倉内町、滝坂、下之町、鍛冶町、戸鹿野町などの住宅地が崩れ、がけ下の榛名町、清水町、薄根町などにも大きな被害が発生する可能性があることを示しました。



井之川博幸市議

現在の下水道雨水排水計画は40年前の計画

そして、沼田台地の市街地に降った雨水を利根川に排水する計画である「沼田市公共下水道雨水排水事業計画」（計画期間：昭和53年～平成32年）の期限である平成32年までの目標（29％）を確実に達成するとともに、その後の計画は最近の豪雨災害を教訓にしている国土交通省の「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」に沿った「沼田市雨水管理総合計画」を策定するよう市長に求めました。

市長は、「参考にする」と答えました。

利根中央病院付近を洪水から守る堤防の延長を

また井之川議員は、71年前のカスリーン台風で片品川流域で死者不明者 25 人も出すなどの大水害や西日本豪雨でダムが放水したために洪水になったなどの教訓から、沼須町の集落の（右中段へつづく）

移動支援にデマンド乗り合いタクシーを

井之川議員は、免許証自主返納者へ沼田市は、バスカード 2 枚と証明書第 1, 100 円を助成しているが、バス券は利用できない人がいるので、タクシー券などと選べるように、施策の拡充を求めました。

また、車に乗れない高齢者などが増え続けるので、移動支援は路線バスだけでなく、赤字の少ない「デマンド乗り合いタクシー」を実施するよう求めました。

住宅リフォーム助成事業の復活を

沼田市は、今年度から住宅リフォーム促進助成制度を廃止してしまいましたが、井之川議員は、県内でも全国でも、実施する自治体は増え続けている。リフォームを希望する市民にはもちろんのこと、中小建築業者にとっても景気対策としてかけがえがない制度であり、何としても復活をと市長に求めました。

（左下から）片品川河岸には石積の立派な堤防があるが、数百m下流で終わっていることを示し、利根中央病院が建設された地域は、もともと建物がなかったため、堤防を造らなかったと思われるが、この土地は、河川敷との境は1.5mほどの土手があるだけで、土手沿いには市が中央病院に委託している病児保育施設「くるみ」もあり、豪雨で増水すれば、倉敷市の真備記念病院のような大惨事になる可能性があることを指摘し、管理者である群馬県に強く要望するよう市長に求めました。

市長は、「県に強く要望していきたい」と答えました。



沼須集落の突き当り立派な堤防がある



利根中央病院の南側、堤防はなく土手の下は河川敷、ゲートボール場先は片品川

2018年9月23日 No.895

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料